

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立東与賀小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力は、国語科の研究を中心に言葉を大事にする学習を進めてきたが、しかし、国や県と比較するとまだまだ改善の余地がある。 ・児童が自他を大切に思う行動ができるように学校全体で取り組んでいるが、まずは自分が認められる存在であるように「ほめる」活動を今後も継続していく必要がある。 ・チーム学校として児童個人の把握に努め、保護者、S S WやS C、外部機関との連携を今後も回り円滑な運用と児童の成長を促す必要がある。
2 学校教育目標	ふるさとを愛し、自ら学び、ともに生きていく東よかつ子の育成 — 「元気」と「笑顔」あふれる学校—
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①「ほめる」文化作りを行いながら、自己肯定感の醸成や自己表現を図る。 ②教職員の指導のベクトルを揃えることで、学校生活や学習規律の徹底を図り、規範意識を醸成する。 ③チーム学校と優先課題を意識することで、働き方改革の推進を図る。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者	
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価			
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価 評価 意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	学校評価アンケートを実施し、「あなたは学校の勉強がわかりますか」「勉強したことが分かったりできるように頑張っていますか」の項目が児童・教師ともに80%以上	・学習習慣を身に付けさせる。 ・家庭学習の充実を図るための啓発を進める。 ・つまづきの程度に応じて補充指導を実施する。					学力向上部 (副)学力向上コーディネーター	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童の道徳的価値の自覚を深めるために、毎週の「道徳科」の充実を図る。 ○Q-Uテストにおける受支援者を10%以下に減少させる。 ○毎月「ほかほかカード」を書く時間を設け、友達のおさや自分の頑張りを振り返ることができるようにする。 ○人権集会を実施し、生命尊重や他者への思いやりなど、人権感覚を高める。	・各教科等との関連を意識した「道徳科」の授業を実施する。 ・Q-Uテストを年2回実施して分析を行い、学級経営の改善を図る。 ・児童の役割・出書をつくり、「ほかほかカード」を活用することで、児童の自己肯定感を高める。 ・各学年で取り組む人権教室や全校でのほかほか集会などを通してお互いを思いやる気持ちを育てる。					道徳教育推進教員 人権・同和教育担当 (副)各学年主任	
	●心の教育	○いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○児童の実態把握のため、全校児童・保護者対象のアンケートを実施し、いじめ問題等の早期発見を行う。 ○アンケートを活用して、事前にいじめ防止ができた回答者を90%。	・いじめに関するアンケートを児童・保護者を対象に年2回実施し、実態を把握する。(6月・11月) ・10月のころを教職員間で共有し、複数の教師で指導にあたる。					生徒指導担当 (副)各学年主任
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上 ●各学年の実態に応じてキャリア教育を充実させる。	・地域の方を招いてのキャリア教育講話を実施し、児童に将来の夢や目標について考える機会をもたせる。 ・各種体験活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組んだり、将来の夢や目標に近づけるため学年や学期始めにキャリアパスポートを活用する。					こころの教育部	
●健康・体づくり	○学校行事や遊びでたてわり活動を実施する。	○縦割り活動を充実させ、活動が楽しいと感じる児童を80%以上。	・月に2回程度たてわり遊びを実施し、異学年交流を行う。 ・学校行事を通してたてわり班活動を行い、交流を深めたり、リーダーとしての意識を高めてきたりする。					自主自立部	
	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上 ②「生活習慣チェック表」の各項目の○が4日/7日以上の割合の児童生徒70%以上(早寝早起きができた・歯みがきをした等)	・みんなで運動することの楽しさを味わい、運動への意識が向上するように、年2回の「よかつこオリンピック」、スポーツチャレンジを実施する。また、昼休みに遊べるボールや縄跳びを各クラスに配布し、トラブルなく遊べるようルールを設ける。 ・保健だよりや掲示物で、望ましい生活習慣についての啓発をする。また、学級担任と養護教諭のTT授業で児童に直接保健指導を行うことで、自身の体へ関心を高める。					健康安全部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○児童生徒が交通安全に意識して登下校をすることができる。	○毎日の登下校や休日の過ごし方で、交通安全を意識している児童が90%	・交通安全教室や日々の指導等で交通安全への意識を高める。また、見守り下校を通して、児童の交通安全を意識する機会を作る。					健康安全部	
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・時間外勤務月45時間を常に意識するようにし、毎週金曜の定時退勤日の推進や平日の残業時間の削減を今年度も強く勧める。 ・校内LANを活用した職員会議等の時間の10%削減。					管理職	
●特別支援教育の充実	○学校業務改善の推進	○管理職だけでなく学校全体で業務の改善を図るための話し合いを月1回行い、スリム化を実践する。	・主任会を月1回開催し、その中で学校全体行事だけでなく学年ごとの行事の精選を行い負担軽減を図る。					管理職	
	○個に応じた支援体制の確立	○個々の実態に応じた支援を行うために、全職員の共通理解を図る情報交換の場を月に1回設ける。 ○学校生活支援員との連携を深めるために、児童の記録ファイルを毎週末、各担任・コーディネーター・管理職で回覧する。	・配慮を要する児童について、教育支援計画や個別の指導計画を作成し、年2回見直し活用する。 ・必要に応じて支援会議を開催し、適切な対応を協議し全職員で支援していくと共に、外部機関との連携を図る。					特別支援コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価 評価 意見や提言
○教職員の資質向上	○校内研を中心とした教職員の資質向上	○教職員へ向けての意識調査で、肯定的な回答を70%以上	・学習課題の立て方や、言語活動を貴く学習の方法を探り、積極的に取り入れたものを実際に授業に取り入れ、授業公開を行っていく。						学力向上部 (副)学力向上コーディネーター
○地域連携	○ふるさとを愛し自ら学び、ともに生きていく東よかつ子の育成のために地域との連携を図る。	○どの学年でも地域との関わりをもつ内容を盛り込んだ授業づくりを行い、地域との関係性を深めながらふるさとを愛し、誇りに思う児童の育成を図る。	・各学年の発達段階に応じて地域の特徴ある伝統文化や特産物と触れる学習を進める。					地域連携指導教諭	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
--------------------	---